

Abhayākaragupta 作 *Āmnāyamañjarī* 所引文献

—新出梵文資料・第1～4章より—*

苫米地 等流(人文情報学研究所/密教聖典研究会)

0. はじめに

11世紀から12世紀にかけてのインド仏教最後期においてヴィクラマシーラ寺院の学頭として活躍した Abhayākaragupta は、顕密両教にわたる広範な学識をもって知られ、その多彩な著作群はインド仏教の衰亡後もネパール・チベットの仏教に多大な影響を及ぼした。彼の著作のうち、各種マンダラの尊格構成を扱った *Niṣpannayogāvalī* はその梵本が B. Bhattacharyya によって夙に公刊され、マンダラ作成儀礼のマニュアル *Vajrāvalī* や護摩儀礼マニュアル *Jyotirmañjarī* といった著作も梵本に基づく研究が行われている¹。これら三種の著名な儀礼手引書に加え、近年では *Buddhakaṭātantra* の註釈 *Abhayapaddhati* の梵本が部分的ではあるが校訂出版されている(Luo 2010)。また、彼の顕密教分野の著作では最重要といつてよい *Munimatālankāra* の梵本も発見され、近時着々と研究が進められている(李 2012; 加納・李 2012, 2014, 2015; Kano & Li 2014; 横山 2014)。

Abhayākaragupta の密教分野における主要著作としては、*Samputodbhavantra* の大註釈 *Āmnāyamañjarī* を第一に挙げるべきであろう。それ自体がインド密教の集大成的な性格を持つ *Samputodbhava-*

* 本稿は、科学研究費助成事業(基盤研究(B))「密教思想と他の仏教思想との関係性～ヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群を中心に～」(課題番号 26284008)による成果の一部である。執筆にあたっては、種村隆元(大正大学)・加納和雄(駒沢大学)・倉西憲一(大正大学)諸氏のご協力を得た。記して謝意を表したい。

1 梵本で現存する Abhayākaragupta の著作については、Tomabechi & Kano 2008: 22–23 参照。

tantra に対し Abhayākara Gupta がその学識を揮って註釈を施した本書は、インド密教百科事典と呼んでも過言ではない多彩な内容を誇る。しかしながら、その梵本は最近までごく僅かな断片としてしか得られていなかった (Tomabechi & Kano 2008)。また、チベット発現の完全な梵文写本の存在は確認されているものの、未だ研究の用には供されておらず、本書の研究はもっぱら蔵訳に依拠して行われてきた。しかし、近年中国で出版された梵蔵合璧写本の影印版は、本書をとりまく資料状況を一変させた。本稿では、この新出資料を簡単に紹介した上で、現時点で得られている知見の一端として、テキスト冒頭部の転写を提示し、さらに *Āmnāyamañjarī* 所引文献の梵文テキストの一部を抜粋・提示する。また、今後の研究の展望についてもいささか触れてみたい。

1. *Āmnāyamañjarī* の新出梵蔵合璧資料

1.1. 資料の概要

本稿で取り上げる新出資料は、以下の出版物に含まれる—

Rare and Ancient Tibetan Texts Collected in Tibetan Regions Series (藏区民间所藏藏文珍稀文献丛刊 [精华版] / བོད་ཡུལ་དཔལ་དཔལ་ལོ་སྤྱི་ཙུ་ཚེད་དཔེ་རྫིང་ཕྱོགས་བསྒྲིགས་). 3 volumes. 123mm×430mm. Compiled by Institute of the Collection and Preservation of Ancient Tibetan Texts of Sichuan Province (四川省藏文古籍搜集保护编务院). Published by Chengdu: Sichuan Nationalities Publishing House (四川民族出版社) / Beijing: Guangming Daily Press (光明日报出版社), October 2015. ISBN 978-7-5409-5974-6.

これは以下の3巻1帙の写本カラー影印版(図版1)からなっており、その第1巻に *Āmnāyamañjarī* 梵蔵合璧写本が複製されている。

1. 喜金刚吉祥正加行续王之注解 班智达晋麦迺列贝巴著 དཔལ་ཡང་དག་པར་སྦྱར་བའི་རྒྱ་དྲི་རྒྱལ་པོའི་རྒྱ་ཚེར་འགྲེལ་པ། བརྗེ་ཏཱ་ལའི་གསལ་མེད་འབྲུང་གནས་སྤོས་པས་མཛད། (XXI + 892 pp.)

2. 噶举巴诸尊者道歌集 玛尔巴大译师等著 བཀའ་བརྒྱུད་རིན་པོ་ཆའི་མགུར་མཚོ། མར་པ་ལོ་
ཙོ་བོ་གསུམ་གྱིས་མཛད། (V + 748 pp.)
3. 三律仪之经义善说 布康巴将杨仁青降参著 རྩོམ་པ་གསུམ་གྱི་གཞུང་ལུགས་ལེགས་པར་
བཤད་པ། རྩོམ་ཁང་པ་འཇམ་དབྱངས་རིན་ཆེན་རྒྱལ་མཚན་གྱིས་མཛད། (V + 427 pp.)

第1巻の中国語表題を一見しただけでは、これが *Āmnāyamañjarī* であることを即座に認識するのはやや困難であり、むしろ *Hevajratantra* 関連の加行(prayoga)論を思わせる。加えて、出版物の外題・巻の表題にも梵蔵バイリンガルの写本であることを示すものがないこともあってか、2015年の発行にもかかわらず、ごく最近まで研究者に注目された形跡はない。

第1巻は、本出版物3巻全体の収録文献および第1巻所収 *Āmnāyamañjarī* の章構成を記す「目録」(pp. III–VII)、チベット語・中国語・英語の「འགོ་རྟོན། / 前言 / Preface」(pp. IX–XXI)につづいて *Āmnāyamañjarī* の梵蔵合璧写本を掲載する(pp. 3–892; pp. 1–2 はカバーページ)。残念ながら「前言」には、この写本の由来・所在に関する情報は一切明かされておらず、フォリオのサイズや紙質等、原写本の物理的特徴も全く記載されていない。これは、本出版物の極めて華美な装幀と併せて考えるならば、学術研究資料というよりはむしろ一種の観賞用美術品として位置づけられたためではないかと思われる。また、外題にある「民間所蔵」が示すとおり本写本はプライベートコレクションからの収録であるが、このことに起因するデリケートな諸事情も情報不足の一因かと考えられる。

影印版から見てとれる限りにおいて、本写本の特徴を記すと以下のとおりとなる—

- 通常の横長 dPe cha 形式の紙写本であり、テキスト書写領域は赤色の二重線枠で囲われる。料紙の色はクリーム色に近い淡褐色で、保存状態は良好である。

- 写本葉番号は、蔵文写本の慣例に従い、各葉表側(recto)のテキスト書写領域外側左手に速記体 dBu med 字で記される。写本最終葉には 444 の番号が振られているが、Folio 38, 197 がそれぞれ上(goñ ma)・下('og ma)の 2 枚ずつあるため、実際の葉数は 446 となる。ただし、Folio 61 が欠損しているため²、現存葉数は 445 である。
- テキストは、Folio 1r、1v、444r を除き、1 面あたり梵文 3 行・蔵文 3 行の計 6 行で記される。梵文は奇数行、蔵文は偶数行に書写されている(図版 2)。1r には 2 行でタイトルが、1v、444r には 4 行でテキストが書写されている。最終葉裏面(444v)は空白となっている。
- Folio 1r には、縦横中央揃えで梵文タイトル(1r1)および蔵文タイトル(1r2)が記される。梵文タイトルは、黒字で *āmnāyamañjaryā(!) nāma śrīsaṃpuṭatantrarājaṭīkāyām* として処格語尾を伴う形で記されるが、これは各章の尾題に現れるタイトルをそのままコピーしたためであろう。蔵文タイトルは固有名詞部分と末尾を赤字、それ以外を黒字で記される(下線部赤字: *dpal yañ dag par sbyor ba'i rgyud kyi rgyal po'i rgya cher 'grel pa man nag gi sñe ma žes bya ba bžugs so*)。
- 見開き第 1 面(1v)左右両端にはそれぞれ、カトヴァーンガを左腕に抱えカパーラとカルトリ刀を持つ赤色の女尊と、髭を生やし右手で説法の相を示す学僧の細密画が描かれ、それぞれの下部に“*rdo rje btsun mo la na maḥ*”、“*slob dpon a bha ya la na maḥ*”の帰敬文が dBu can 体チベット字で記される(図版 2)。
- 梵文テキストの書体は、Hook-topped Nepalese と通称されるネパール文字である。テキストはすべて黒字で書写されている。一方、蔵文は dPe tshugs と呼ばれるタイプの dBu med 体で記され、地の文は黒字、註釈対象となる *Saṃpuṭodbhava tantra* の文言は赤字で記される。梵文・蔵文のいずれも熟練した丁寧な手跡である。テキストの配置状態から判断すれば、まずはじめに蔵文が筆写され、それに揃えるかたちで梵文が書かれたものと考えられる。
- 梵文テキストの書体から判断する限り、写本の書写年代は 14-15 世紀ごろと考えられる。ただし、筆写者が古い写本の書体を忠実に真

2 欠損部分は、蔵訳 (D. 1198) 22r3-7 に相当する。

似た可能性も否定できないため、実際の年代はそれより下ることも考えられる³。

- 梵文・藏文のいずれにおいても、引用の導入句 (*tathā coktaṃ, yad uktaṃ, uktaṃ ca dvikalpe* など) は赤色のインクでマークされている。引用文自体は黄色のインクでマークされる。Abhayākara Gupta が引用文の典拠を明示していない箇所では、dBu med 体チベット字の割り注(赤字)で典拠を示している場合がある。その例として図版 3 に挙げたケースでは、割り注で出典が *Dignāga* の *Prajñāpāramitā-piṇḍārtha* (*brGyad ston don bsdus*) であることが追記されている。
- 註釈対象である *Sampūṭodbhava Tantra* は 10 の章 (*Kalpa*) からなり、各章は 4 の節 (*Prakarana*) で構成される。これに従い、*Āmnāyamañjarī* は全体で $4 \times 10 = 40$ の章(通し番号で数えられる)からなるが、本写本はその第 17 章までを収録する。蔵訳と比較すると、これは全テキスト分量のほぼ半分にあたることになる。このことと、写本最終葉にわざわざ空白を設けていることを考え合わせると、本来この写本は 2 巻本として筆写された可能性が高いが、第 2 巻の所在はいまのところ不明である。
- 章と写本葉番号との対応は次のとおりである—

I. 1v1–63r6 (pp. 4–126); **II.** 63v1–103r2 (pp. 127–207); **III.** 103r1–129r2 (pp. 207–259); **IV.** 129r1–172v6 (pp. 259–346); **V.** 172v5–214r4 (pp. 346–431); **VI.** 214r5–241r2 (pp. 431–485); **VII.** 241r3–265r4 (pp. 485–533); **VIII.** 241r3–273r2 (pp. 533–549); **IX.** 273r1–286v4 (pp. 549–576); **X.** 286v3–296r6 (pp. 576–595); **XI.** 296v1–308r4 (pp. 596–619); **XII.** 308r3–413r2 (pp. 619–829); **XIII.** 413r1–420r4 (pp. 829–843); **XIV.** 420r3–423r6 (pp. 843–849); **XV.** 423r5–425v6 (pp. 849–854); **XVI.** 426r1–426v6 (pp. 855–856); **XVII.** 426v5–444r4 (pp. 856–891)

3 本写本に使用される書体は、1457 年の奥書をもつケンブリッジ大学所蔵 Add. 1708.1 (*Vilāsavajra* 作 *Nāmamantrārthāvalokinī*) のものに近い。写本画像は <https://cudl.lib.cam.ac.uk/view/MS-ADD-01708-00001/1> で参照できる。

1.2. *Āmnāyamañjarī* 冒頭部梵文テキスト

参考のため、以下に帰敬・造論の趣意・各章要義を含む写本冒頭部 1v3–7r1 のテキスト転写を挙げる。テキスト修正は必要最小限にとどめ、**repha** に続く子音の重複や -ttva- > -tva- 表記など写本の綴り、連声・句読は原則として保存する。転写にあたっては、以下の記号を使用する（これらの記号は、本稿第 2 節でも同様に使用する）⁴。

- ⟨ ⟩ 写本で補われている文字
- { } 写本で削除されている文字
- * *virāma*
- [] 割り注
- « » 筆者による補い
- Ms manuscript
- em. emendation

[帰敬]

(1v3) *namo bhagavate śrīvajrasatvāya | nama āryāvalokite(2r1)śvarāya mahākāruṇikāya ||*

*mūrttir vajravilāsinībahalitānandādvayī janminām
antarjyotir udañcayanty api tamastomāsta(2r3)kṛṇṇnirmitaiḥ |
yasyorjan nijaniṣprapañcaparamaprajñākṛpāsaṃputaḥ
kuryād vaḥ^a kuliśeśvara«ḥ» sa vīla(2r5)sallaḥṣmīmahimno bhavaṃ ||*

^a *kuryād vaḥ em.] kuryādah Ms;*

*prāyo ’smi tena nāthenādhiṣṭhito mām hi tadgiraḥ
svam arthaṃ kathayanty uccair ddaridram iva mātaraḥ ||*

(2v1) *api ca svapnadṛṣṭānām preraṇād vajrayoṣitām |
udghāṭayāmi satvārthaṃ ratnānām iva saṃputaṃ ||*

*kiñ ca samyaggurūdbhinnāmnāya(2v3)kalpadrumaṅjarīm |
ropayāmi jagatṛptyai phalasaṭrair nnirarggalaiḥ ||*

4 ここで提示するテキスト転写は、加納和雄氏によって準備されたものをベースとし、Harunaga Isaacson 氏のご意見を参考に筆者が修正を施したものである。両氏に感謝するとともに、誤り・不備等についての責任はすべて本稿筆者にあることを記して置く。

[造論の趣意]

iha khalv abhidheyādisrutim vinā prāyaḥ (2v5) satām śrutādau na pravṛttir
ity abhidheyādikaṃ saṃgītikṛt* sāmārthyād ākṣipann āha | evam mayā
śrutam ityādi

iha (3r1) hi daśakalpātmakaṃ śrīsaṃpuṭatantram abhidhānaṃ tasya phala-
tantrātmā bhagavān* vajrasattvo deśako 'bhidheyaś ca tatsākṣātkriyāhetu-
ta(3r3)yā hetutantram upāyatantrañ cābhidheyaṃ | evañ ca deśyadeśaka-
sambandho 'bhidhānābhidheyasambandho hetuphalasambandhaś cokatḥ |
(3r5) vineyānāñ ca śrīsaṃpuṭārthapratipatti<ḥ> prayojanaṃ | vajropama-
<ma>hāsukhaikarasā sakalajagadupakāriṇī phalavajradharasvarūpamahā-
mudrāsiddhiḥ (3v1) prayojanaprayojanam ity ākṣiptaṃ | tad evaṃ [nam
bshad rigs par]

prayojanaṃ saṃpiṇḍārthaṃ sapadārthānusandhikaṃ |
sacodyaparihārañ ca vācyam sūtrārtha(3v3)vācibhir

iti nyāyād uktaṃ prayojanaṃ |

piṇḍārthādayo vācyāḥ |

[第1–4章(*Saṃpuṭodbhavantra* 第1 Kalpa)要義]

tatra prathame prakaraṇe kramadvayam utpattyutpannakramātmakam
uddiṣṭaṃ | (3v5) dvitīye hetutantram utpannakrama eva nirddiṣṭaḥ | tṛtīya-
caturthābhyām utpannakrama eva pratinirddēśēnābhidyotitaḥ |

[第5–12章(第2・第3 Kalpa)要義]

etac ca kramadvayam abhiṣikta(4r1)syaiva deśanīyam abhyasanīyañ ceti
kramadvayāṅgam abhiṣeko vipaṅcitaḥ | pañcame prāptasaṃvṛtiparamārthā-
bhiṣekasya mahāvajradharatvaprāptu(4r3)kāmasyādhimātrendriyasya mahā-
mudrāsiddheḥ sāksādūpāyasya mudrāyogasya sāksādūpāyotpannakrama-
bhāvanaiva niṣṭhatā^a ṣaṣṭhe | mṛdumadhyendriyābhyān tūtpannakrama (4r5)
utpattikramakramākramabhāvanāpūrvako bhāvanīya ity utpannakramasya
sāksādūpāyotpattikramabhāvanā^avirbhāvitā saptame «'»ṣṭame navame
daśama ekā(4v1)daśe dvādaśe ca |

^a niṣṭhatā em.] niṣṭhātā Ms

[第 13–16 章 (第 4 Kalpa)要義]

evam ubhayakramabhāvakasya yoginaḥ prāthamikasyābhimatasampāda-
nārthaṃ sannihitayoginīnāṃ saṃketaparijñāyopāyāṅgā(nā)ṃ vā«k»-
(4v3)cchommādaya uktās trayodaśe caturdaśe pañcadaśe ṣoḍaśe ca |

[第 17–20 章 (第 5 Kalpa)要義]

viditasamketānugrahārthaṃ milanasthānaṃ pīthādīkam uktaṃ saptadaśe |
tatra militasyā(4v5)nyasya vā kramadvayabhāvanayopāyāṅgasya viśuddha-
syaiva viśayasyopabhogārthaṃ kramadvayaṃ skandhādīviśuddhīś ca spaṣṭī-
kṛtāṣṭādaśe^a | evaṃvidhasyāpi (5r1) vinā caryayā «na» mahāmudrāsiddhir iti
samantabhadracaryā prakāśitā ūnaviṃśatitame viṃśatitame ca |

^a°āṣṭādaśe em.] °āṣṭādaśe Ms

[第 21–24 章 (第 6 Kalpa)要義]

tadanu trīyaprakaraṇoktotpannakramo (5r3) nāḍīsthānaviśeṣavyavasthā ca
susthāpitā ekaviṃśatitame dvāviṃśatitame ca | utpannakramasyetthaṃbhāva-
nārthaṃ bahirmaṇḍalahomādi(5r5)grahavañcanāvimocanāya utpanna^akra-
mamaṇḍalahomapūjādi«r» nirddiṣṭas trayoviṃśe catu«r»viṃśe ca |

^a utpanna° em.] trotpanna° Ms

[第 25–28 章 (第 7 Kalpa)要義]

prāguktacchommās ca(5v1)tasro drṣṭayaḥ karmaprasarāś copāyāṅgatvāt* |
prapañcitāḥ^a pañcaviṃśe ṣaḍviṃśatitame saptaviṃśatitame ṣṭaviṃśe ca |

^a prapañcitāḥ em.] prapañcita Ms

[第 29–32 章 (第 8 Kalpa)要義]

ūnatrīṃśattame tu vajravajra(gha)ṇṭāsvarūpaṃ nirūpitaṃ (5v3) trīṃśe
«'»kṣasūtrādīkam utkrāntir ekatrīṃśe | dvātrīṃśe mantrā upāyāṅgatvena
samutthitāḥ |

[第 33–36 章 (第 9 Kalpa)要義]

trayastrīṃśattame tūtpanna(5v5)maṇḍalabhāvanayā mahāmudrātmakasya
jātibodhidharmacakrapravarttanādīvikurvaṇair utpattir uddiṣṭā^a | vighnopaśa-
mādyartha(6r1)m upāyāṅgam balir varṇnitas^b catustrīṃśe | upāyāṅgam
paṭapustake pañcatrīṃśattame | pūrvoktapīthādiṣu gaṇamelake (6r3) yogino
vādyādir udīritāḥ ṣaṭ*trīṃśe^c |

^a uddiṣṭā em.] uddiṣṭāḥ Ms; ^b varṇnitas em.] varṇnata Ms; ^c ṣaṭtrīṃśe em.] ṣaṭtrīṃśa
Ms

[第 37–40 章 (第 10 Kalpa) 要義]

evaṃ pravṛttasyāvīratam bhāvayato bāhyamudrām vinā na mahāmudrā-siddhi(6r5)r iti mahāmudrāsiddheḥ sāksādūpāyāḥ kulavilāsinīsevā niyamitā saptatrinśattame | evaṃ mahāmudrāsiddhisamaye niruttara(6v1) satkriyā yogīndracūdāmaṇer^a nniṣṭāṅkitāṣṭatrimśe | asyaiva svārthasampattimato bhagavataḥ svarūpaviśeṣo māyāvīkurvitam (6v3) coddīṣtam trayastriṃśe nirdīṣtam ūnacatvāriṃśe | ete svaparārthasampattī phalatantram | sarvas caīṣa parapuruṣārthaḥ samunmūlita^b sakalakaḥ pañjālā(6v5) nuttaraprajñō-pāyabhāvanayā samayasevām vinā na sampadyata iti samayasevā'virbhāvītā catvāriṃśattame |

^a °maṇer em.] °mañir Ms ; ^b samunmūlita° em.] samunmūlitaḥ Ms

iti piṇḍārthena sarvasyaiva tantrārtha(7r1) syotkarṣadarśanārtha(ṃ) tantra-sambandham ākhyāya vyākhyātuḥ śrotīṇāṅ sukhena vyākhyāyai grahaṇāya ca saṃkṣepeṇābhīhitārthasya padārthavyākhyānādikam (7r3) yathāvasaram abhidhīyate |

2. *Āmnāyamañjarī* 第 1–4 章所引文献梵文テキスト

以下に、抜粋・提示するのは、*Āmnāyamañjarī* 第 1–4 章(写本 1v1–172v6; *Saṃpūṭodbhavantra* 第 1 Kalpa 相当部分)に引用される文献の梵文テキストである。ここでは引用文献を、大乘経典・密教経典・大乘論書・密教論書・その他のジャンルに分け、文献タイトルのアルファベット順に配列している。一見してわかるように、引用される文献は極めて多岐にわたっており、テキスト中で出典が明示されているもの、および筆者が同定しえたもの合わせて 42 種にのぼる。引用のかなりの部分を *Hevajratantra* および *Guhyasamāja* 続タントラが占めるが、これ以外のものの中には注目に値する引用が少なからずある。そのなかでも、『大日経』具縁品からの引用や、『理趣広経』からの 1 偈が「大楽金剛秘密儀軌王」の名で引かれている箇所などはとりわけ注意を惹く。また大乘論書では、Nāgārjuna に帰せられる *Bodhicittavivarāṇa* が 6 偈引用されたり、Asaṅga の *Mahāyānasamgraha* からの 1 偈が見いだせることなども、本資料の重要性の一端を示すものといえる。これら多彩な引用文献の分析は、今後本書を研究するに際して重要な課題の一つとなるであろう。

引用の抜粋にあたっては、すでに梵文が知られているものであっても異読資料としての価値を考慮し、省略せずに提示した。ただし、Abhayākara-gupta が *Samputodbhavantra* の他の箇所と言及・引用する箇所は除外している。出典となる文献が梵蔵の校訂本として公刊されている場合は、それら校訂本中での所在を記し、それ以外の場合はチベット大蔵経デルゲ版(D.)での位置を記した。また、写本中、引用の出典が割り注で追記されている場合には、[]内に割り注のテキストを提示した。なお、現段階で出典が同定できていない引用がいくつかあるが、それらについては諸賢のご教示を仰ぎたい。

2.1. 大乘経典

Avikalpapraveśadhāraṇī

(118v3) tathā cōktam *Avikalpapraveśāyām dhāraṇyām* |
 avikalpāsāyo bhūtvā saddharme ’smin jinātmajaḥ |
 vikalpadurggaṃ vyatītya (118v5) kramā«n» niṣkalpam āpnute |
 praśāntam acalaṃ śreṣṭhaṃ vaśavartī samāsamaṃ |
 nirvikalpasukhaṃ tasmād bodhisatvo «’dhi»gacchati |

= *Avikalpapraveśadhāraṇī* [16] vv.1–2 (松田 1996: 99)

Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā

(85v3) tathā cōktam *Pañcaviṃśatisāhasrikāyām*^a | bodhipakṣadharmeṣu
 sthita eva«m» jānāti pariḥāyasyāyaṃ kālaḥ sāḥkṛtyāyā ityādi |
^a°sāhasrikāyām em.] °sahasrikāyām Ms

= *Pañcaviṃśatisāhasrikā* (Kimura 1990: 193)

* * *

(86r1) yathoktaṃ tatraiva sūtre | (86r3) kathaṃ bhagavan paramārthataḥ
 smṛtyupasthānādīni | āha | yena mañjuśrīḥ kāya ākāśasamo dṛṣṭa idaṃ
 kāye kāyānupaśyanā (86r5) smṛtyupasthānaṃ | yena vedanā^a cittaṃ
 kuśalākuśalādīdharmās ca nopalabdhaḥ | yāvad evaṃ mañjuśrīḥ para-

mārthata«ś» catvāri smṛtyupasthānāni draṣṭavyāni | (86v1) yāvat yaḥ prakṛtisamāpannān prakṛtivilkṣiptān sarvadharmān paśyaty ārambaṇānu-palabdhitvād ayam samyak(86v3)samādhiḥ | yaḥ kaścit mañjuśrīr evaṃ smṛtyupasthānāni yāvad āryāṣṭāṅgamārga«ṃ» samanupaśyati tam aham uttīrṇapāragam iti vadāmi (86v5) yāvat sarvākāravaropetasarvajñajñānam abhisamboddhukāmena eṣu dharmeṣv adhimuktiḥ kāryeti |

^a vedanā em.] vedanādā Ms

出典未確定⁵

Buddhabhūmisūtra

(151r1) yathoktaṃ *Buddhabhūmisūtre* | dharmadhātuviśuddhau (151r3) miśropamiśra ekarasakāryo jñānasambhoga iti |

= D. 275, 43r3–4

Mañjuśrīparipṛcchā

(84v3) yathoktaṃ *Āryamañjuśrīparipṛcchāṛddhiprātihāryamahāyāna-sūtre* | (84v5) bhaviṣyanti mañjuśrīr anāgate 'dhvani bhikṣavas te 'śubhataḥ kāye kāyānudarśanaṃ smṛtyupasthānaṃ nirdeksyanti yāvat | ayam eva (85r1) paramārtha iti |

出典未確定⁶

Ratnakūṭa (Kāśyapaparivarta)

(33r3) yathoktam^a *Ārya*(33r5)*ratnakūṭe* cittaṃ hi kāśyapa parigavesyamaṇaṃ labhyate | yal labhyate tan nopalabhyate yat nopalabhyate tannaivātītaṃ nānāgataṃ (33v1) na pratyutpannaṃ | tat^b tryadhvaṃ samatikrāntaṃ tan naivāsti na nāsti yan naivāsti na nāsti tad ajātaṃ | (33v3) yad ajātaṃ tasya nāsti svabhāvaḥ | yasya nāsti svabhāvas tasya nāsty utpādaḥ | yasya nāsty utpādas tasya nāsti nirodhaḥ | yasya nāsti nirodhas tasya nāsti vigamaḥ | avigatasya (33v5) na gatir nāgati«r» na cyutir nopapattiḥ | yatra na gatir nāgatir na cyutir nopapattis tatra na

5 この引用は、直前の *Pañcaviṃśatisāhasrikā* を受けて「同じ経に(tatraiva sūtre)」の形で導入されるが、*Pañcaviṃśatisāhasrikā* ではこの箇所のように文殊が請問者となる場面はないため、実際には別の経典からの引用と考えられる。

6 同一の引用は、*Munimatālaṅkāra* (D. 3903) 185r2 にも確認される。

kecit saṃskārā yatra na kecit saṃskārās tad a(34r1)saṃskṛtaṃ yad
 asaṃskṛtaṃ tad āryāṇāḥ gotram iti vistaraḥ | (A)
 ata eva yad uktam atraiva nityam^c iti kāśyapāyam eko 'ntaḥ | anityam iti
 (34r3) dvitīyo 'ntaḥ | tathā'stīti kāśyapāyam eko 'ntaḥ | nāstīti dvitīyo
 'ntaḥ | yad anayor antayor madhyam arūpyam anidarśanam apratiṣṭham
 anābhāsam a(34r5)vijñaptikam aniketam iyam ucyate madhyamā
 pratipad dharmāṇām bhūtapraṅkṣeti | (B)

^a yathoktam em.] yathoktamm Ms; ^b tat em.] tan Ms; ^c atraiva nityam em.] atraivā-
 nityam Ms

(A) = *Kāśyapaparivarta* §102 (Staël-Holstein 1926: 149); (B) = §56
 (*ibid.*, 86)

* * *

(139v5) *Ratnakūṭasūtre* coktaṃ | tadyathā kāśyapa śālikṣetreṣu saṃkara-
 kūṭa^a upakāribhavati | (140r1) evaṃ bodhisatvasya kleśā upakāri-
 bhavanti | (A)

tadyathā kāśyapa mantrauśadhipariḡhītaṃ viṣaṃ na vinipātayati | evaṃ
 prajñopāyasamanvito (140r3) bodhisatvaḥ kleśair na vinipātyata iti | (B)

^a °saṃkarakūṭa em.] °samkarakūṭa Ms

(A) = *Kāśyapaparivarta* §49 (Staël-Holstein 1926: 79); (B) = §48 (*ibid.*,
 78)

***Laṅkāvatārasūtra* (?)**

(116v1) dr̥ṣyate na ca tatrāsti tathā bhāveṣu^a bhāvatetyādinā sūtrā-
 diṣu bahuśaḥ prakāśita(116v3)m iti bhāvaḥ |

^a bhāveṣu em.] bhaveṣu Ms

Cf. *Laṅkāvatārasūtra* 10.709c, 10.95d (Vaidya 1963: 154)⁷

7 この引用は、*Laṅkāvatārasūtra* に見られる形とは一部相違する。一
 方、Kamalaśīla の *Bhāvanākrama* 初編には、Abhayākara Gupta が伝えるも
 のとほぼ一致する偈が *Laṅkāvatāra* として引用されている (Tucci 1956:
 204)。

Śatasāhasrikā Prajñāpāramitā

(85v1) yad uktaṃ *Bhagavatyāṃ Śatasāhasrikāyāṃ* | smṛtyupasthā«nā»-
nupalabdhitāṃ upādāyetyādi |

出典未確定

Satyadvayanirdeśasūtra

(36v5) yathoktaṃ *Satyadvayanirdeśasūtre* | (37r1) yāvat sarvākāravaro-
petasarvajñājnānaviṣayātīkrāntaṃ devaputra paramārthaṃ satyam iti |

= D. 179, 247r5;

Sāgaranāgarājaripṛcchā

(35v1) *Āryasāgaranāgarājaripṛcchāyāñ* coktaṃ |
pūrvāntasūnyā a«pa»rāntasūnyā
utpā«da»bhaṅgasthitibhāvasūnyāḥ |
naiveha^a bhāvo 'sti na cāpy abhāvaḥ
(35v3) śūnyāḥ svabhāvena hi sarvadharmā iti |

^a naiveha em.] naivai Ms

= D. 153, 192a3–4;

2.2.密教經典

Acalakalpa (**Āryācalakrodharājasya sarvatathāgatasya balāparimita-
vīravīnayasvākhyāto nāma kalpa*)

(158v1) tathā c*Ācalakalpe* |
bodhicittaṃ sthiraṃ kṛtvā mantrasiddhir udāhṛtā |
anyathā (158v3) viphalam sarvaṃ mantrasiddhidhikriyāḥ | (A)
sarvabhāvāḥ samāseṇa niḥsvabhāvatvacintanāt |
labhyate bodhicittam vai nānyathā kevalam bhaved iti | (B)

(A) = D. 495, 267v5; (B) = 267v6–7

Advayasamatāvijayatāntre

(11v3) tathā cāh*Ādvayasamatāvijayatāntre* |

bhago hi bhagavān buddhas tena rāgo na duṣyatī |

出典未確定⁸

Guhyasamājatantra

(56v5) *Samāje* ca trivajrābhedyasvarūpaṃ vya(57r1)vasthāpitaṃ |
utpādayantu bhavantaś^a cittaṃ kāyākāreṇetyādinā |

^abhavantaś em.] bhavantuś Ms

= *Guhyasamājatantra* ch. 2 (Matsunaga 1978: 9)

Guhyendutilaka etc.

(139r5) ata evoktaṃ *Guhyendutilakā*(139v1)*ditantreṣu* |
nāsti kiñcid akartavyaṃ prajñopāyena cetasā |
nirviśaṅkaḥ sadā bhūtvā bhu«ñ»kṣva tvaṃ kāmapañcakaṃ || (A)
bodhicittaṃ dṛḍha«m» yasya (139v3) niḥsaṅgā ca matir bhavet |
vicikitsā na kartavyā tasyedaṃ sidhyate dhruvaṃ | (B)
tatvaṃ vijñāya yatnena yo «'»dhimuktiṃ niṣevate |
sa sidhya(139v5)ty anyathā tasya mahānirayapātanam iti || (C)

(A) = D. 477, 271r4–5; (B, C) 出典未確定⁹

8 この偈は、*Advayasamatāvijaya* 蔵訳(D. 452)・梵本(Fan 2011)いずれにも対応を見いだせない。その一方で、同一の偈が*Jinadatta (rGyal bas byin)作 *Guhyasamājatantrapañjikā* (D. 1847) 150r7–v1 に、やはり *Advayasamatāvijaya* よりとして引用されている: de yañ gsuñs pa | gñis su med par mñam par rnam par rgyal ba las | bha ga bcom ldan sañs rgyas te || des na 'dod chags sum mi dbyuñ || gañ gzan dam tshig gsum po rnams || de ñid 'di'i nañ du 'dus || zes so ||。同偈は他にも、*Vimalagupta (Dri med sbas pa) 作 *Śriguhyasamā-jālaṅkāra* (D. 1848) 6r3–4 に *Advayasamatāvijaya* として引用される: de yañ gñis su med par mñam pa 'i rnam par rgyal ba las gsuñs pa | bha ga bcom ldan sañs rgyas te || des na 'dod chags sum mi dbyuñ || de ñid gzan ni dam tshig gsum || de ñid 'dir ni 'dus pa yin || zes so ||。また、Bhavabhadrā 作 *Hevajra-vyākhyāvivaraṇa* (D. 1182) 175r6 にも以下の形で引用されるが、出典は明示されていない: de ñid gsuñs pa | gañ gi phyir na bha ga ni | bcom ldan 'das dañ sañs rgyas te | des na 'dod chags ñes pa med || ces pa ste |。

9 (A)(B)(C)の三偈を含む引用偈群は、Śāntaraksita に帰せられる *Tattvasiddhi* (D. 3708) 27v2–6 にも見出され、そこでも出典は「*Guhyendutilaka* など」とされている: de ñid kyī phyir | zla gsañ thig le la sogs pa | rnal 'byor rgyud ni ma lus las | śes rab thabs ldan sems kyis ni || mi bya ba ni ci yañ med || rtag tu dogs pa med gyur pas || 'dod pa lña ni spyad par bya || (= A) zes bya ba dañ | sman gyi

Caturyoginīsamputatantra(123v3) ata evoktaṃ *Caturyoginīsamputatantra*(123v5) yad yad indriyamārgatvam yāyāt tat tat svabhāvataḥ |
sarvakāmapabhogena sarvaṃ buddhama«ya»m vahed iti |

= D. 376, 45r5

Dākinīvajrapañjara

(26v1) śūnyatā vajram ucyata

(26v3) iti *Dākinīvajrapañjarokteḥ*^a |^a°okteḥ em.]°oktaḥ Ms

出典未確定

* * *

(63v3) yathoktaṃ *Dākinīvajrapañjare* | [le'u gsum par]

śūnyatākaruṇābhinnam yatra cittam prabhāvyyate |

saiva buddhasya dharmasya saṃghasyāpi hi deśaneti |

= D. 419, 54v7–55r1¹⁰***Mañjuśrītantra***(136v5) tathā coktaṃ *Mañjuśrītantra* punar aparaṃ devasaṃghāḥ
sarvamantravidaḥ (137r1) sarvadharmāṇām pratītyasamutp{ā}annatām
prajānanti | teṣāṃ evaṃ bhavati ime dharmā evaṃ śūnyā māyopamās
calā yāvat | eṣām utpādo «'»pi prajāñāyate (137r3) sthitir api bhaṅgo

phye ma'i sbyor ba yis || sbrul ni 'chiñ bar 'gyur ba bzin || 'dod ldan rtag tu
chags byed la || glu dañ rol mo la dga' žiñ || 'dod pa'i bde bas ñoms med pa ||
'grub 'gyur 'di la the tshom med || gañ žig byañ chub sems brtan žiñ || blo gros
chags pa med gyur pas || the tshogm dag ni mi bya ste || de yis 'dir ñes 'grub par
'gyur || (= B) žes bya ba dañ | legs brtag śin tu dpyad nas ni || mkhas pa rñams ni
'jug bya yi || gžan du mer ni 'jug pa yis || bcu drug 'char yañ mi phod do || de
ñid de bžin gyis śes na || gañ žig lha mo la bsten (em.] brtan D) pa || de 'grub
'gyur gyi gžan du ni || dmyal ba chen por ltuñ bar 'gyur || (= C) žes gsuñs pa
yin no ||.

10 写本割り注は、本偈の所在を第3章(le'u gsum par)とするが、第13章の誤り。

«'»pi | avidyāpratyayā ime saṃskārā utpadyante yāvat | evam asya duḥkhaskandhasya samudayo bhavati | tasmāt tarhi paṇḍitajātīyēnāvidyāprahāṇāya «ya»ti(137r5)tavyaṃ | avidyānirodhān niruddhā bhavanty amī ajñānasamñisrītā^a dharmā ajñānaprahāṇān na samudācaranti kleśā na pravartante gatayo (137v1) niruddhā bhavanti saṃsārahetavaḥ | āsannībhūto bhavati nirvāṇasya | saṃsāra«sva»bhāvagatyupapatticyutisandarśanatayā'nābhogenaiva sarvamantrāṇaṃ siddhim anu(137v3)praviśantīti |

^a °samñisrītā em.] °samñisrītā Ms

出典未確定

* * *

(158v5) *Āryamañjuśrītantra* ca | daśabhir devasaṃghā dharmāloka-mukhyaiḥ samanvāgatāḥ sarvamantrajāpinaḥ sarvamantracaryām anupratiṣṭhā bhavanti | kṣipra(159r1)ñ cānuttarāṃ samyaksambodhim abhisambudhyante | sarvamantrasiddhayaś cāmukhībhavanti | yad uta dharmapūjayā dharmakāyā hi tathāgatā (159r3) dharme pūjite sarvatathāgatāḥ sarvapratyekabuddhāryaśrāvakāḥ sarvabodhisatvāḥ sarvamantrāś ca pūjitāḥ {bhavanti} suprasthitā bhavanti nāmiṣapūjayā (159r5) pratipattipūjayā satvānā«ṃ» hitasukhākāritayā satvārthapravṛttitayā | samādā«nā»nutsargatayā | mantracaryā(159v1)karmānutsargatayā | yathāvāditathākāritayā tīkṣṇaprajñatayā^a aparikhinnamānasatayā | bodhicittānutsargatayā ca | mārsās tathāgatā yāvat nāmiṣapūjayeti |

^a °prajñatayā em.] °prajñatayā Ms

出典未確定

Mañjuśrīnāmasaṅgīti

(157v3) *Nāmasaṃgītyāṃ*^a coktaṃ | (157r5) sarvavāksuprabhāsvara iti |

^a nāmasaṃgītyāṃ em.] nāmasaṃgīti Ms

= *Mañjuśrīnāmasaṅgīti* 29d (Davidson 1981: 52)

Rigyarallitantra

(154r5) uktaṃ hi *Rigyarallitantra* | rigī devī arallir vajradhara iti |

Cf. D. 427, 176r5, 176v5, 178r5, 178v2, 179v6-180r1¹¹

Vajradākatantra

(140r3) tathā coktaṃ *Vajradākatantra* | (140r5) evaṃ caivambhūtair api māyopamair bhāvair viśiṣṭaṃ sambhogasaṃjātasukhapaṇiṇāmanayā yady ete viśiṣṭabhāvanābhyaśabalā(140v1)d viśiṣṭasaumanasyādikaṃ kāryam utpādyānuttaraphalāptau hetubhāvaṃ pratipadyante tadā bhagavan devī na kaścid doṣa iti |

= *Vajradākatantra* 1.67 (Sugiki 2002: 93)¹²

Vajraśekharatantra

(10r5) tad uktaṃ *Vajraśekhara* |
(10v1) bhañjanam bhagam ity uktaṃ kleśamārādibhañjanāt |
prajñāvadhyāś ca te kleśā tasmāt prajñā bhagocyata iti |

= D. 480, 191v7 (3.127¹³)

Vajrārallitantra

(154r5) *Vajrārallitantra* ca | (154v1) vajrārallir vajrasatva iti |
出典未確定¹⁴

11 同タントラには、Aralli を Vajradhara に直接等置する文言は見られない。しかし、Siddhārtha 太子（釈尊）の父 Śuddhodana 王と母 Māhāmāyā 妃はそれぞれ、Aralli と Rigi の化現であるとしたうえで、Siddhārtha は Vajrasattva であり父は Vajradhara であるとして、間接的に Aralli イコール Vajradhara と説く。

12 このパッセージは、*Tattvasiddhi* (D. 3708) 30v3-5 にパラレルが見出される：
gañ gi tshē de lta bu'i sgyu ma lta bu'i dngos po khyad par can gyi loñs spyod las yañ dag par byuñ ba'i bde ba yoñs su gyur pa las 'bras bu khyad par can cuñ zig tsaṃ thob pa de'i tshē ci'i phyir mi 'dod || 'di dag ni ño bo ñid kyis brten pa ma yin gyi 'on kyañ snañ ba tsaṃ gyi mtshan ñid yin no || gal te 'di dag khyad par can gyi sgom pa goms pa'i stobs kyis bde ba dañ | yid bde ba la sogs pa'i khyad par can gyi 'bras bu bskyed pa na bla na med pa thob pa'i rgyu'i ño bor de'i tshē 'gyur ba na gal ba yañ med do || (下線部は、*Āmnāyamañjarī* に引用なし)。

13 章・偈の番号は、北村 2012 による。

14 *Vajrārallitantra* (D. 426) 中、Vajrasattva (rDo rje sems dpa') の語は 1 度だけ出現する (174r1) が、Aralli/Vajrāralli との関連を示す文脈においてではない。むしろ同タントラでは、Aralli を Heruka の別名としている (174v6-

Vairocanābhisambodhi

(158r3) tathā *Vairocanābhisambodhā*^a uktam | katham guhyakādhipate
tathāgatā mantranayaṃ mantravidhiṃ (158r5) lipyakṣarair adhiṣṭhanti |
tatra guhyakādhipate yā tathāgatair anekakalpasahasrasamudānitā vāk |
(A)

tatra guhyakādhipate bodhi(158v1) satvena akārasthitena sarvaṃ kāryam
anuṣṭhātavyam iti | (B)

^a °bodhāv em.] °bodhav Ms

(A) = D. 494, 170v3–4; (B) 出典未確定

Śrīparamādyā (Mantrakalpakhanda)

(140v3) yathoktam *Paramādyatantra* |
sarvakāmopabhogais tu sevyamānair yathe(140v5) cchataḥ |
svādhidaivata^a yogena svaparāṃś caiva pūjayet^b | (A)
apathyāny api deyaṇi sarvakāmasukhāni tu |
ātmanas tu pareṣāṇ ca sarvāśā(141r1) paripūraya iti | (B)

^a svādhidaivata° em.] svadhidaivata° Ms; ^b pūjayet em. (mchod par gyis Tib.)]
jāyate Ms

(A) = D. 488, 207v2 (cf. *Guhyasamājatantra* 7.2); (B) = 239v5

* * *

(172r1) tathā coktam | *Mahāsukhavajraguhye kalparāje*
(172r3) avikalpāt samādhes tu satvārthaparikalpanāt |
tena kalpaḥ samākhyātaḥ kalpanāparisuddhaya iti |

= D. 488, 196v4–5

Samājottara

(18v3) tathā cāha *Samājottare* |
tantra«ṃ» prabandham ākhyātam
tatprabandha(18v5)s tridhā bhavet |

7: dpal ldan he ru ka yi ni || ā ra li zes bya ba'i mtshan ||). おそらく Abhayā-
karagupta は、中心的な尊格である Heruka を同じく重要な Vajrasattva と
同体とみなし、本タントラに言及したのであろう。

ādhāraḥ prakṛtiś caiva asaṃhāryaprabhedataḥ | (A)
 uddiṣṭapādānāṃ nirddeśam āha |
 prakṛtiś cākṛtihetur asaṃhāryaṃ phalan tathā |
 (19r1) ādhāras tu upāyas tu tribhis tantrārthasaṃgraha iti | (B)

(A) = *Guhyasamājantra* 18.34 (Matsunaga 1978: 115); (B) = 18.35
 (*ibid.*, 115)

* * *

(20r5) tathā hi *Samājottaraṃ* |
 trividhaṃ kāyavākiccitaṃ guhyam ity abhidhīyate |
 samājaṃ mīlanaṃ (20v1) proktaṃ sarvabuddhābhidhānakam iti |

= *Guhyasamājantra* 18.24 (Matsunaga 1978: 114–115)

* * *

(24r5) tathā ca *Samājottaraṃ* |
 praññopāyasamāpattir yoga ity abhidhīyate |
 (24v1) yā niḥsvabhāvatā praññā upāyo bhāvalakṣaṇa iti |

= *Guhyasamājantra* 18.33 (Matsunaga 1978: 115)

* * *

(143v3) atra *Samājottaraṃ* |
 pañca hetīś ca vetīś ca vajram ity abhidhīyate |
 dhāraṇaṃ dhṛg iti proktaṃ vijñānaṃ vajradhṛṇṇ mana iti |

= *Guhyasamājantra* 18.40 (Matsunaga 1978:116)

* * *

(144v1) tad uktaṃ *Samājottare* |
 kula(144v3)m anvayam ākhyātam^a anvayī ādir ucyate |
 avināśam anutpannaṃ yan nāthaṃ tat prakathyata iti |

(118)

^a ākhyātam em.] ākhyātaṃ Ms

= *Guhyasamājantra* 18.45 (Matsunaga 1978: 116)

* * *

(145r1) atrottaraṃ *Samājottaraṃ* |

vijñānaṃ dveṣaṃ ākhyātaṃ hetivetidvayor^a viśāṃ |

(145r3) rūpaṃ moham iti khyātaṃ jaḍabandhasvabhāvataḥ ||

vedanā madamānākhyā ahaṃkārasvabhāvataḥ |

saṃjñā saṃrāgam ātmānaṃ vastvavasakti^b (145r5)lakṣaṇaṃ |

saṃskāras tu sadā īrṣyā pratītyapreritātmanā |

svabhāvaṃ bodhicittaṃ tu sarvatra bhavasambhavam iti |

^a °dvayor em.] °dvayair Ms; ^b °avasakti° em.] °avaśakti° Ms

= *Guhyasamājantra* 18.46–48 (Matsunaga 1978: 116)

* * *

(146v1) ata evoktaṃ tatraiva |

kāmaṃ cittam iti proktaṃ (146v3) rāgadveṣatamo«'»nviṭaṃ |

samayaṃ viśvasaṃkāśaṃ abhimukhaṃ karmajaṃ phalam iti |

= *Guhyasamājantra* 18.49 (Matsunaga 1978: 116)

* * *

(153r3) uktañ ca

sarvatra bhavasambhavam iti |

= *Guhyasamājantra* 18.48d (Matsunaga 1978: 116)

Sarvatathāgatatattvasaṅgraha

(98r1) tathā (98r3) cokta«m» *Vairocanābhisambodhau* | paśya tvam
kulaputra svacittaṃ candrākāreṇetyādi |

Cf. *Sarvatathāgatatattvasaṅgraha* §§20–21 (堀内 1983: 24–25)¹⁵

* * *

(172r5) *Tatvasaṅgraha* ca |
 buddhānām avikalpan tu jñānaṃ bhavati śāsvataṃ |
 avikalpāt tato jñānāt kalpanāt kalpa ucyata iti |

= *Sarvatathāgatatattvasaṅgraha* §2908 (堀内 1974: 369)

Sarvadevasamāgamatantra

(141r3) uktañ ca *Sarvadevasamāgamatantra* |
 (141r5) yair eva mūḡhā badhyante {badhyante}
 budhāḡ krīḡanti tair iha |
 satvasaṃpūrṇṇayogena anyathā yāti dīpavat |
 satvena nirviśaṅkena sarvāvastho «'»pi sarvadā |
 (141v1) sarvācārapravṛtto «'»pi na bandham upayāsyati |
 śūnyarūpam idaṃ sarvaṃ śūnyākāreṇa cakṣuṣā |
 paśyatām nirvikalpānām satā«ṃ» niḡsaṅkatā^a (141v3) bhaved iti |

^a niḡsaṅkatā em.] niḡsaṅkatā Ms

Hevajatantra

(21v1) tathā *Hevajraḡ* |
 hekāreṇa mahākaruṇā vajraṃ prajñā ca bhāṇyate |

= *Hevajatantra* 1.1.7ab (Snellgrove 1959: 2)

* * *

(32r1) tathā coktaṃ *Dvikalpe* | [phyi ma'i gsum par |]
 (32r3) indriyaṃ viśayas caiva indriyajñānam eva ca |
 dhātavo aṣṡādaśa khyātā yoginīnān tu bodhaye |
 svabhāvañ cādyanuṡpannaṃ na satyaṃ na mṛṣā tathā |
 (32r5) udakacandropamaṃ sarvaṃ yoginyo jānatecchayeti |

15 Abhayākaraḡupta は *Vairocanaḡhisambodhi* をこの引用の出典として記すが、実際には *Sarvatathāgatatattvasaṅgraha* のいわゆる五相成身觀の一部を要約したものである。

= *Hevajatantra* 2.3.35–36 (Snellgrove 1959: 56)

* * *

(38[^oog ma]v5) etadartham eva
 krama utpattikaś caiva krama utpanna eva ca
 kramadvayam samāśritya^a vajriṇām dharmadeśanā |
^a samāśritya em.] anāśritya Ms

= *Hevajatantra* 1.8.24cd–25ab (Snellgrove 1959: 28); cf. *Guhyasamā-jatantra* 18.84 (Matsunaga 1978: 119)

* * *

(39v3) tad uktaṃ *Hevajratantre* | [phyi ma'i bzi par]
 maṅḍalaṃ cakrādyupāye(39v5)na^a svādhiṣṭhānakrameṇa ca |
 bo«dhi»cittam utpādayed vivṛtisaṃvṛtirūpakam |
 sāmṃvṛtaṃ kundasaṃkāśaṃ vivṛtaṃ sukharūpiṇam iti | (A)
 punaś ca [dañ po'i brygad par]
 dharmodayodbhavaṃ jñānaṃ (40r1) khasamaṃ sopāyānvitam |
 trailokyas tatra jāto hi prajñopāyasvabhāvataḥ |
 śukrākāro bhaved bhagavāṃs tat sukhaṃ kāmīnī smṛtam iti | (B)
 punaḥ [dañ po'i brygad par]
 (40r3) svādhiṣṭhānakramo hy eṣa sarvajñajñānatanmayam iti | (C)
 punaś ca [phyi ma'i gsum par]
 maṅḍalacakrādyupāyena sātatyam yāti niścitam iti | (D)
^a °upāyena em.] °upāyesa Ms

(A) = *Hevajatantra* 2.4.29cd–30ab (Snellgrove 1959: 66); (B) =
 1.8.49–50ab (*ibid.*, 30); (C) = 1.8.51cd (*ibid.*, 30); (D) = 2.3.25cd (*ibid.*,
 56)

* * *

(41r3) tad uktaṃ *Dvikalpe* «'»pi | [dañ po'i brygad par]
 (41r5) bodhicitta«ṃ tu» devateti |

= *Hevajatantra* 1.8.27b (Snellgrove 1959: 28)

* * *

(47v1) yathoktaṃ *Dvikalpe* |
 etad eva mahājñānaṃ sarvadehe vyavasthitaṃ |
 advayaṃ dvaya(47v3)rūpañ ca bhāvābhāvātmakaṃ |
 sthiracala«ṃ» vyāpya santiṣṭhen māyārūpī ca bhāti ceti |

= *Hevajatantra* 2.3.24–25ab (Snellgrove 1959: 54)

* * *

(48r5) svayaṃ kartā svayaṃ hartā svayaṃ rājā svayaṃ prabhur
 iti pravacanāt |

= *Hevajatantra* 1.8.47cd (Snellgrove 1959: 30)

* * *

(101r1) tathā ca *Dvikalpe* | dvātriṃśad bodhicittā(101r3)vahā mahā-
 sukhassthāne sravantya ity uktam |

= *Hevajatantra* 1.1 (Snellgrove 1959: 4)

* * *

(122r3) tad uktaṃ |
 satsukhatvena tatvam iti |

= *Hevajatantra* 1.5.14a (Snellgrove 1959: 16)

* * *

(154r1) uktañ ca [brtag pa phyi ma'i gsum par |]
 ekārākṛti yad divyaṃ madhye vaṃkāra(154r3)bhūṣitaṃ |
 ālayaḡ sarvasaukhyānāṃ buddharatnakaraṇḡakam iti |

(122)

= *Hevajratantra* 2.3.4 (Snellgrove 1959: 52)

* * *

(156r5) tathā cokta«m» *Dvikalpe* | [(brtag pa gñis) pa'i dan po'i brgyad]
samāni tulyaceṣṭāni samarasais tatvabhāvanaiḥ |
samaṃ tulyam iti proktaṃ (156v1) tasya cakro rasaḥ smṛta iti |

= *Hevajratantra* 1.8.39cd–40ab (Snellgrove 1959: 30)

* * *

(166v3) uktañ ca *Dvikalpe* |
samarasan tv ekabhāvan tu anenā«r»thena kathyata iti |

= *Hevajratantra* 1.8.40cd (Snellgrove 1959: 30)

2.3.大乘論書

Abhisamayālaṅkāra

(50r5) prajñayā na bhavē sthānaṃ kṛpayā na śame sthitiḥ iti

= *Abhisamayālaṅkāra* 1.10 (Stcherbatsky & Obermiller 1929: 3)

Catuḥśataka (Āryadeva)

(141r1) Āryeṇa coktaṃ | [bzi brgya pa'i brgyad par |]
apathyam^a api yad dṛṣṭaṃ tat pathyaṃ paṇḍitaiḥ kvacit | (A)
nanu vyādhiḥ sarvaṃ auśadhaṃ nāma jāyata iti | (B)

^a apathyam em.] āpathyaṃ Ms

(A) = *Ratnāvalī* 4.77ab (Hahn 1982: 122); (B) = *Catuḥśataka* 8.20cd
(Lang 1986: 84)¹⁶

16 写本割り注は *Catuḥśataka* 第8章をこの偈の出典とするが、対応が確認できるのは cd 句のみである。*Jñānakīrti (Ye śeś grags pa) 作 *Tattvāvātāra* (D. 3709) 58r6 には、同じ偈が Nāgārjuna のものとして引用されている: de ñid kyis na 'phags pa klu sgrub kyi žal śna nas kyis kyañ || gañ žig gnod par mthoñ de yañ ||

Cittavajrastava (Nāgārjuna?)

(41r5) Nāgārjunapādair api [sems kyi rdo rje'i bstod par]
cittavajravinirmukto nānyo devo <'>bhidhīyata iti |

= *Cittavajrastava* 2cd (La Vallée Poussin 1913: 15)

Prajñāpāramitāpiṇḍārtha (Dignāga)

(7r5) tad uktaṃ | [brgyad ston don bsduṣ su]
śraddhāvātām pravṛtṭyaṅgaṃ śāstā parṣac ca^a śākṣiṇī^b |
(7v1) deśakālau ca nirddiṣṭau svaprāmāṇyaprasiddhaya iti |
^a ca em.] cha Ms ; ^b śākṣiṇī em.] śākṣiṇī Ms

= *Prajñāpāramitāpiṇḍārtha* 3 (Frauwallner 1959: 140)

Pramāṇavārttika (Dharmakīrti)

(22r5) tathā hi |
dayāvān duḥkhahānā(22v1)«rtha»m upāyeṣv abhiyujyate |
parokṣopeyataddhetos tadākhyānam hi duḥkaraṃ |
yuktyāgamābhyāṃ vimṛśan^a duḥkhahetu«m» parīkṣata
iti nyāyāt |
^a vimṛśan em.] vimūśana Ms

= *Pramāṇavārttika* 2.132–133ab (Miyasaka 1972: 20)

* * *

(23r5) [rnam 'grel du]
śāstraṃ yatsiddhayā^a yuktyā svavācā ca na bādhyate |
dṛṣṭe 'dṛṣṭe ca (23v1) tad^b grāhyam
iti nyāyād āgamena cārvācīnair niścitaṃ^c |
^a °siddhayā em.] °siddhaya Ms; ^b tad em.] tatad Ms; ^c niścitaṃ em.] niścittaṃ Ms

mkhas pas la lar phan par mthoñ || nad kyi dbañ giṣ thams cad kyañ || sman ñid du ni
'gyur ba yin || zes bsad pa yin no ||. なお、引用前半部の同定は、倉西憲一氏のご指摘による。

= *Pramāṇavārttika* 4.108abc (Miyasaka 1972:178)

Bodhicittavivaraṇa

(50v5) tathā cōktam Āryanāgārjunapādaiḥ |
 citrād api param citram adbhutād api cādbhutam |
 jñātvā śūnyān imān dharmān yat karmaphalasevanam^a |
 (51r1) satvatrāṇāśayā hy ete utpannā bhavakarddame |
 aliptās tadbhavair doṣaiḥ padmapatram ivāmbunā^b ||
 dagdhakleśendhanā hy ete śūnyatājñānavahninā |
 (51r3) tathāpi karuṇārdrā vai bhadrādyā ye jinaurasāḥ |
 cyutiḥjanmābhisambodhiyātrāduṣkaradarśanam |
 mārasainyaprabhaṅga(51r5)ñ ca dharmacakrapravartanam ||
 de«vā»vatāranirvāṇam grhān niṣkramaṇan tathā |
 darśayanti jagannāthāḥ karuṇāvaśavartinaḥ |
 (51v1) brahmendropendrarudrādipratibimbapravartanaḥ |
 jagadvinayayogena nr̥tyanti karuṇāśayā iti |

^a °sevanam em.] °sevanā Ms] ^b ivāmbunā em.] ivambunā Ms

= *Bodhicittavivaraṇa* 88–93 (Lindtner 1982: 210)¹⁷

Mahāyānasaṅgraha (Asaṅga)

(141v3) ata evoktam | [theg bsdus kyi ye śes kyi thad du] |
 kleśā bodhyaṅgatām yātāḥ^a saṃsāras ca śamātmatām^b |
 mahopāyavatām tasmād acintyā hi jinātmajā iti |

^a yātāḥ em.] yātaḥ Ms; ^b śamātmatām em.] samātmatām Ms

= *Mahāyānasaṅgraha* X.28.12 (Lamotte 1973: 92)¹⁸

Mahāyānasūtrāṅkāra

(19r5) tad uktam Āryamaitre(19v1)yeṇa |
 sarveṣāṃ aviśiṣṭāpi tathatā śuddhim āgatā |

17 *Bodhicittavivaraṇa* vv. 88–90, 93 の引用は、*Munimatāṅkāra* にも確認される (蔵訳 (D. 3903) 161r2–4; 梵文写本 78r2–3)。これについては、加納和雄氏にご教示いただいた。

18 この偈の a 句は、Ratnarakṣita の *Samvarodaya* 註 *Padmini* にも引用される (種村・加納・倉西 2016: 18)。なお、d 句の jinātmajā[h] を *Mahāyānasaṅgraha* は de bzin gśegs (tathāgatāḥ) とする。

tathāga«ta»tvan tasmāc ca tadgarbhāḥ sarvadehina iti |

= *Mahāyānasūtrāṅkāra* 9.37 (Lévi 1907: 40)

Mūlamadhyamakakārikā (Nāgārjuna)

(35v3) uktaṃ cĀryanāgārjunapādaiḥ |
astīti śāsvatagrāho^a nāstīty ucchedadarśanaṃ |
tasmād astitvanāsti(35v5)tve nāśrayīta vicakṣaṇa iti |

^a °grāho em.] °graho Ms

= *Mūlamadhyamakakārikā* 15.10 (La Vallée Poussin 1903–1913: 272–273)

* * *

(78r5) yad uktaṃ *Mūlamadhyamake* |
astīti śāsvatī dṛṣṭir nnāstīty ucchedadarśanaṃ | (A)
asti yad dhi svabhāvena (78v1) na tan nāstīti śāsvatam |
nāstīdānīm^a abhūt^b pūrvam ity ucchedaḥ^c prasajyata^d iti | (B)

^a nāstīdānīm em.] nāstīdānīm Ms; ^b abhūt em.] abhūta Ms; ^c ucchedaḥ em.]
ācchedaḥ Ms; ^d prasajyata em.] pravartata Ms

(A) = *Mūlamadhyamakakārikā* 15.10ab; (B) = 15.11 (La Vallée Poussin 1903–1913: 273)

Ratnāvalī (Nāgārjuna)

(136v1) tad uktaṃ Āryanāgārjunapādaiḥ | [rin chen phren bar]
trivartmaitad^a anādyā«nta»madhyaṃ (136v3) saṃsāramaṇḍalaṃ |
alāta«maṇḍala»prakhyam bhramaty anyonyahetukam iti ||

^a trivartmaitad em.] trivartmetad Ms

= *Ratnāvalī* 1.36 (Hahn 1982: 16)

Vyākhyāyuktī (Vasubandhu)

(3v1) tad evaṃ [rnam bśad rigs par]
prayojanaṃ sapinḍārthaṃ sapadārthānusandhikaṃ |
sacodyaparihāraṇ ca vācyam sūtrārtha(3v3)vācibhir
iti nyāyād uktaṃ prayojanaṃ |

= *Vyākhyāyukti* 2.1 (Lee 2001: 6)

2.4.密教論書

Pañcakrama

(157v5) *Pañcakrame*

hrasvaṃ samastavākyam syān na cānekaṃ na caikakam iti |

= *Pañcakrama* 1.38cd (Mimaki & Tomabechi 1994: 7)

Pradīpoddyotana

(128r5) tathā ca *Ṣaṭko*{xx}*ṭīṭikā* | vajrakāyatvenāmeyadevīsamāpat-
tyā'samsāraṃ paramā(128v1)nandaikakṣaṇena devamanuṣyādyatikrā-
ntāṣṭagaṇaiśvaryasukhasyānubhavān^a mokṣa itī nītārtha itī |

^a °ānubhavān em. (ñams su myoñ ba'i phyir Tib.)] °anubhavaṃman Ms

= *Pradīpoddyotana* ad *Guhyasamājatantra* 8.3 (Chakravarti 1984: 74)

***Sūtaka* (**Caryāmelāpakapradīpa*)**

(154v1) *Sūtaka* tu arallih kriḍeti^a |

^a kriḍeti em.] kriḍeti Ms

Cf. *Sūtaka* ch. 9 (Wedemeyer 2007: 473)¹⁹

Svādhiṣṭhānaprabheda

(35v5) madhyagrāho «'»py Āryadevapādaiḥ |
astināstitvanirmuktā madhyamā yā tu kalpanā |
madhyamābhīniveśo «'»yaṃ (36r1) nedaṃ māyāsvalakṣaṇam
itī niṣiddhaḥ |

= *Svādhiṣṭhānaprabheda* 4 (Pandey 1997: 171)

19 ここでの *Sūtaka* への言及は、次のパッセージに対するものと見られる: *tatra bhagavān śrīmahāsukho dharmodayamaḥārallikrīdāsvabhāvapradaśanārtham anan-
yamanāṣṭho 'nyonyaprahaśanārtham ca buddhanāṭyaṃ karoty anena krameṇa*
...

2.5.その他

Mahābhārata

(124v5) kālaḥ sṛjati bhūtāni kālaḥ saṃharati praḥā
iti kālavādinaḥ |

Cf. *Mahābhārata* 1.1.188ab (Sukthankar 1933: 29)²⁰

以下、出典未確定

(14r1) yathoktaṃ |
cintāmaṇir ivākampyaḥ (14r3) sarvasaṃkalpavāyubhiḥ |
tathā sthito «'»pi satvānām aśeṣāsāparipūraka iti | (A)
cakrabhramaṇayogena nirvyāpāre «'»pi tāyini |
saṃskārā(14r5)vedhasāmarthyād^a deśanā saṃpravartata iti ca | (B)

^a °sāmarthyād em.] °samarthyād Ms

(A, B) cf. *Tattvaratnāvalī* 42–43 (宇井 1963: 8); (B) *Tattvasaṅgraha*
3367 (Shastri 1982: 1069)

* * *

(52r5) yad uktaṃ
haṭhena yoginī yodyogī! (52v1) sthūlātpayo! bhaved iti |²¹

* * *

(110v3) [mñon rjod kyī bstan bcos su] jālaṃ vṛnda«ṃ» gavākṣayoḥ |

* * *

(141r3) ata evokta«ṃ» bhagavatā | māyopamadharmādhimuktasya
sarvopabhogo yujyata iti |

20 *Mahābhārata* 1.1.188 は、sṛjati に対して pacati の読みを持つ。ここで引用される形は、*Mahābhārata* 3.13.70 に続く挿入偈に見られる(Sukthankar 1942: 46)。

21 この箇所は文脈的には僮罪(sthūlāpatti)を扱うものであるが、テキストの混乱が著しく訂正は困難である。参考までに本写本で類似の内容を説く箇所(213r5–v3)のテキストを挙げておく: tathā balena yoginīsvikāro ... cety aṣṭau sthūlāpattayaś ca。

* * *

(144r1) tathā cokaṭṭam |
 suddhā dhīḥ (144r3) śāsisamkāśā vajram ity abhidhīyata iti ||
 (144r3) abhedyapratibhedañ ca sarvaduṣṭasumbhanāt |
 sarvabuddham ahaṃ vajra«ṃ» bodhicittam ahaṃ dṛḍham iti ca |

3. おわりに—今後の展望と課題

上掲梵文テキストの「要義」部分に列挙される多彩な主題や、引用文献の多様さからも看取できるとおり、インド密教研究に対して *Āmnāyamañjarī* の梵文資料がもたらすインパクトは非常に大きいといえる。そして、この貴重な資料のポテンシャルを最大限活かすためには、何よりもまず精密な校訂テキストの整定が必要であることは言を俟たないであろう。しかしながら、今回登場した新資料に含まれる第 1～17 章に関するだけでも、そのタスク量は一人の研究者が背負うには過大である。したがって、ここで求められるのは、一定の見識と研究スキルを備えた専門家からなるチームによる開かれた共同研究体制の構築ということになる。

幸いなことに、筆者も参画する科研プロジェクト「密教思想と他の仏教思想との関係性～ヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群を中心に～」(代表:久間泰賢三重大学准教授)では、この新出資料が知られる以前より、*Āmnāyamañjarī* 蔵訳を共同研究の素材として扱い、TEI Guidelines に準拠して XML マークアップされた電子データの作成を継続してきた実績がある²²。加えて、このプロジェクトには、Abhayākara-gupta および関係する密教論師著作の研究で重要な成果をあげてきたメンバーが複数含まれている。さらにまた、やはり従来よりこのテキストに関心を持ってきた Harunaga Isaacson 教授(ハンブルク大学)ら海外の第一線研究者との連携も永年にわたって継続している。今般 *Āmnāya-*

22 このマークアップ作業については、2017年5月、ウィーンで開催された国際ワークショップ“The Future of Digital Texts in South Asian Studies: A SARIT Workshop”において発表を行った。概略については以下の URL 参照：
http://www.ikga.oecaw.ac.at/Events/SARIT_Workshop_2017#tomabeche-toru

mañjarī 梵文資料の本格的な研究を始動するにあたって、これまで築きあげてきた科研プロジェクトの体制をコアとする国際的な研究組織を立ち上げるべく準備が進行中であり、インターネット上のクラウドサーヴィスを利用した研究情報共有の仕組みも構築しつつある。

具体的な研究作業においては、*Āmnāyamañjarī* という文献の特質および Abhayākaragupta の著作スタイルをふまえ、広範かつ詳細にテキスト成立のバックグラウンドを解明してゆく必要がある。Abhayākaragupta の諸著作には、他文献からの明示的な引用に加え、先行文献からの借用が多くみられることがわかっているが²³、これらの精査によって彼の学識が拠って立つ基盤を明らかにすることで、梵文校訂の質を高めることが可能と考えられる。本稿は、そのためのごくささやかな一歩に過ぎないが、今後は共同研究を通してさらに情報を集積し、信頼性の高い校訂本の作成を目指したいと考えている。

参考文献

Chakravarti 1984

Chakravarti, Chintaharan (ed.): *Guhyasamājantrapradīpodyotanāṭikā-ṣaṭkoṭivyaḥkhyā*, Tibetan Sanskrit Works Series 25, Patna: Kashi Prasad Jayaswal Research Institute.

Davidson 1981

Davidson, Ronald: “The Litany of Names of Mañjuśrī. Text and Translation of the *Mañjuśrīnāmasaṃgī*”, in M. Strickman (ed.) *Tantric and Taoist Studies in Honour of Professor R. A. Stein*, vol. 1 (*Mélanges chinois et bouddhiques* XX), pp. 1–69.

Fan 2011

Fan Muyou (ed.): *Advayasamatāvijaya. A Study Based upon the Sanskrit Manuscript Found in Tibet*, Series of Sanskrit Manuscripts & Buddhist Literature 2, Shanghai: Zhongxi Shuji.

23 Abhayākaragupta の著作における他文献の借用については、加納・李 2012: 39 に指摘がある。

(130)

Frauwallner 1959

Frauwallner, Erich: “Dignāga, sein Werk und seine Entwicklung”, *Wiener Zeitschrift für die Kunde Süd- und Ost-asiens* 3, pp. 83–164.

Hahn 1982

Hahn, Michael: *Nāgārjuna's Ratnāvalī*, Vol. 1, The Basic Texts (Sanskrit, Tibetan, Chinese), Bonn: Indica et Tibetica Verlag.

Kano & Li 2014

Kano, Kazuo & Xuezhu Li: “Sanskrit Verses from Candrakīrti's *Triśaraṇasaptati* Cited in the *Munimatālaṃkāra*”, *China Tibetology Journal* 22, pp. 4–11.

Kimura 1990

Kimura Takayasu (ed.): *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā IV*, Tokyo: The Sankibo Press.

La Vallée Poussin 1903–1913

La Vallée Poussin, Louis de (ed.): *Mūlamadhyamakākārikās (Mādhyamika-sūtras) de Nāgārjuna avec la Prasannapadā Commentaire de Candrakīrti*, Bibliotheca Buddhica IV (reprint Tokyo: Meicho-Fukyu-Kai, 1977).

La Vallée Poussin 1913

La Vallée Poussin, Louis de: “Les quatre odes de Nāgārjuna”, *Le Muséon* n.s. XIV, pp.1–18.

Lamotte 1973

Lamotte, Étienne: *La somme du grand véhicule d'Asaṅga (Mahāyānasamgraha)*, Tome 1, Versions tibétaine et chinoise (Hiuan-tsang), Louvain-la-Neuve: Institut orientaliste de Louvain.

Lang 1986

Lang, Karen: *Āryadeva's Catuḥśataka. On the Bodhisattva's Cultivation of Merit and Knowledge*, Indiske Studier VII, Copenhagen: Akademisk Forlag.

Lee 2001

Lee Jong Cheol (ed.): *The Tibetan Text of the Vyākhyāyukti of Vasubandhu*, Bibliotheca Indologica et Buddologica 8, Tokyo: The Sankibo Press.

Lévi 1907

Lévi, Sylvain (ed.): *Mahāyāna-sūtrālamkāra. Exposé de la doctrine du grand véhicule*, Tome 1, Texte (reprint Kyoto: Rinsen Book Co., 1983).

Lindtner 1982

Lindtner, Christian: *Nagarjuniana*, Indiske Studier IV, Copenhagen: Akademisk Forlag.

Luo Hong 2010

Luo Hong: *Abhayākara Gupta's Abhayapaddhati, Chapters 9 to 14, Critically edited and translated*, Sanskrit Texts from the Tibetan Autonomous Region 14, Beijing: China Tibetology Publishing House.

Matsunaga 1978

Matsunaga Yukei (ed.): *The Guhyasamāja Tantra*, Osaka: Toho Shuppan.

Mimaki & Tomabechi 1994

Mimaki, Katsumi & Toru Tomabechi (eds.): *Pañcakrama. Sanskrit and Tibetan Texts Critically Edited with Verse Index and Facsimile Edition of the Sanskrit Manuscripts*, Bibliotheca Codicum Asiaticorum 8, Tokyo: The Centre for East Asian Cultural Studies for Unesco.

Miyasaka 1972

Miyasaka, Yusho (ed.): “*Pramānavārttika-kārikā* (Sanskrit and Tibetan)”, *Acta Indologica* II.

Pandey 1997

Pandey, Janardan: *Bauddhalaghugrantha Samgraha (A Collection of Minor Buddhist Texts)*, Rare Buddhist Texts Series 14, Sarnath-Varanasi: Central Institute of Higher Tibetan Studies.

(132)

Shastri 1982

Shastri, Dwarikadas: *Tattvasangraha of Ācārya Shāntaraskṣita*, Bauddha Bharati Series 2, Varanasi: Bauddha Bharati.

Snellgrove 1959

Snellgrove, David: *The Hevajra Tantra, A Critical Study. Part II. Sanskrit and Tibetan Texts*, London Oriental Series 6, Oxford: Oxford University Press.

Staël-Holstein 1926

Staël-Holstein, Baron A. von (ed.): *The Kācāyapaparivarta. A Mahāyānasūtra of the Ratnakūṭa Class Edited in the Original Sanskrit, in Tibetan and in Chinese* (reprint Tokyo: Meicho-Fukyu-Kai: 1977).

Sugiki 2002

Sugiki, Tsunehiko: “A Critical Study of The Vajraḍākamahatantraraja (I) — Chapter. 1 and 42. —”, *Chisan Gakuhō* 51, pp. 81–115.

Sukthankar 1933

Sukthankar, Vishnu S. (ed.): *The Mahābhārata*, vol. 1, Poona: Bhandarkar Oriental Research Institute.

Sukthankar 1942

Sukthankar, Vishnu S. (ed.): *The Mahābhārata*, vol. 3, Poona: Bhandarkar Oriental Research Institute.

Tomabechi & Kano 2008

Tomabechi, Toru & Kazuo Kano: “A Critical Edition and Translation of a Text Fragment from Abhayākaragupta’s *Āmnāyamañjarī*: Göttingen, Cod.ms. sanscr.259b”, *Tantric Studies* 1, pp. 22–44.

Tucci 1956

Tucci, Giuseppe: *Minor Buddhist Texts*, Part II, Rome: Is.M.E.O.

Vaidya 1963

Vaidya, P. L. (ed.): *Saddharmalaṅkāvatārasūtra*, Buddhist Sanskrit Texts No. 3, Darbhanga: The Mithila Institute.

Wedemeyer 2007

Wedemeyer, Christian K.: *Āryadeva's Lamp that Integrates the Practices (Caryāmelāpakapradīpa). The Gradual Path of Vajrayāna Buddhism According to the Esoteric Community Noble Tradition*, New York: American Institute of Buddhist Studies.

宇井 1963

宇井伯壽『大乘佛典の研究』、東京、岩波書店

加納・李 2012

加納和雄・李学竹「梵文『牟尼意趣莊嚴』 (*Munimatālamkāra*) 第一章の和訳と校訂一冒頭部一」、『密教文化』229、pp. 37–63.

加納・李 2014

加納和雄・李学竹「梵文『牟尼意趣莊嚴』第1章末尾の校訂と和訳 (fol. 67v2-70r4) —『中観光明』一乗論証段の原文回収—」、『密教文化』232、pp. 7–42.

加納・李 2015

加納和雄・李学竹「梵文校訂『牟尼意趣莊嚴』第一章 —『中観五蘊論』にもとづく一切法の解説 (fol. 48r4-58r5)—」、『密教文化』234、pp. 7–44.

種村・加納・倉西 2016

種村隆元・加納和雄・倉西憲一「Ratnarakṣita 著 *Padminī* 第1章前半：Preliminary Edition および註」、『川崎大師教学研究紀要』1、pp. 1–33.

堀内 1974

堀内寛仁『梵藏漢対照初會金剛頂經の研究 梵文校訂編(上)』、高野山、密教文化研究所

(134)

堀内 1983

堀内寛仁『梵藏漢対照初會金剛頂經の研究 梵文校訂編(下)』、高野山、密教文化研究所

松田 1996

松田和信「*Nirvikalpapraveśadhāraṇī*—梵文テキストと和訳—」、『佛教大学総合研究所紀要』3、pp. 89–113.

横山 2014

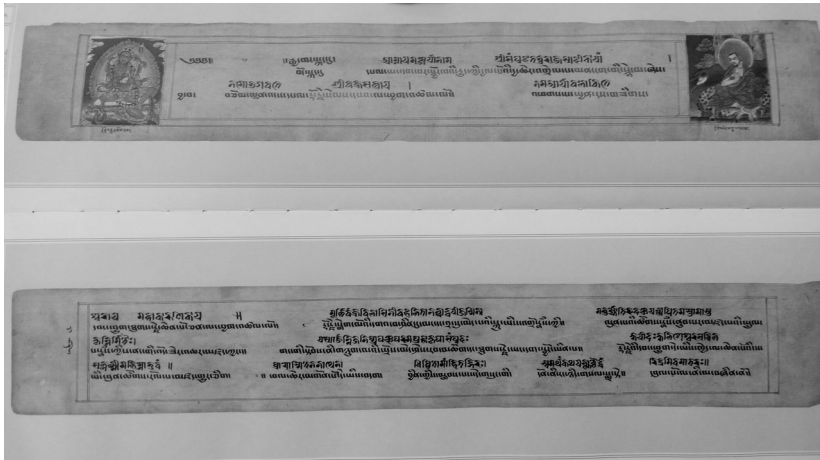
横山剛「『牟尼意趣莊嚴』(*Munimatālaṃkāra*)における一切法の解説—月称造『中観五蘊論』との関連をめぐって—」、『密教文化』233、pp. 21–47.

李 2012

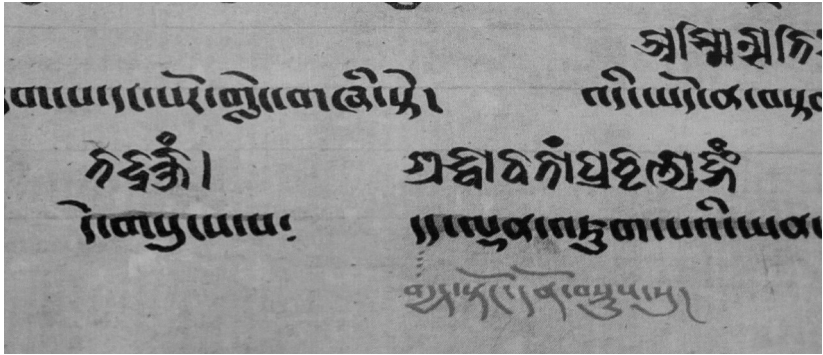
李学竹「『牟尼意趣莊嚴』*Munimatālaṃkāra*の梵文写本について」、『密教文化』229、pp. 25–35.



図版 1: 外觀



図版 2: Fol. 1v-2r



图版 3: Fol. 7r (部分)